

共通教育科目における、84 人の受講生とのコミュニケーション試行

教育地域科学部 発達科学講座 石井パークマン麻子

1. 「スウェーデンの障害児教育」

平成17年11月に本学に着任した筆者は、平成18年度前期から共通教育科目「スウェーデンの障害児教育」を開講している。筆者の専門分野が障害児教育であり、本学着任以前にはスウェーデンでこの分野の仕事に従事していたので、このテーマを選択した。授業においては、84名という多数の受講生を相手のコミュニケーションの構築をポイントの1つとして展開してきた。本稿では今期の授業の概観と受講生による授業評価について述べることとする。

2. 授業のねらい

授業のねらいは次の4点である。

- 障害とは何か、について考える
- 障害をもつ人の一生を視野に入れた考察を行う。
- 基本概念としてノーマライゼーション、インテグレーション、インクルージョンについて知見を得る。
- 自己と外界、事象を多角的且つ批判的に見る視点を培う。

授業で特に考慮したことは次のことがらであった。

- 毎回、テーマを明確にする。視覚教材を活用して受講者にテーマの共通理解を図る。
- 一人ひとりが考えることが基本。必要に応じて小グループディスカッションを入れる。
- 各々が思考を深め、整理し、定着させるために、授業の最後に記述によるリフレクションの時間を10分程取る。
- わかりやすい授業、興味を引き出す工夫をする。

受講生に期待したこと：

- a. 現象や事象を表面のみで判断せず、その背景や影響を与えたものごとを考えを進める思考を促す。
- b. 障害児教育の基礎となる、『人間存在』と『生きる』ということについての見方を深め、広げる。
- c. 相手の立場に近づき、その人の考えや世界を知ろうとする志向を持つ。
- d. 人の意見に耳を傾け、自分を客観的に見ようとする視点を培う。
- e. 教育と隣接する関連分野について知識を得る。

3. 成績

本講義の成績は毎回の小レポート、テストの総合評価とした。

4. 受講生による授業評価

受講生は84名で、内訳は工学部41名（1年生10名、2年生11名、3年生17名、4年生3名）、教育地域科学部42名（1年生15名、2年生12名、3年生11名、4年生4名）、市民受講生1名（保育士）であった。15回の授業終了後、受講生による授業の総合評価と自己評価を行った。評価表には上記の「受講生に期待したこと」および「授業で考慮したこと」を記し、以下の評価項目3点について10分程で記入を求めた。その際、この評価の目的は授業者が来年度の授業運営に生かすことにあり、受講生の成績には一切反映されない点を明確に伝えた。

評価記入項目

- 講義の総合評価（10段階で10はベスト、1はワースト）
- 受講生の受講姿勢に関する自己評価：講義に意欲的な気持ちで参加しましたか。（10段階で10はベスト、1はワースト）
- その他、意見があれば書いてください。

回答者数は計72名（工学部37名、教育地域科学部33名、所属無記名者1名、市民受講生1名）であった。講義の総合評価の平均値は8.37（工学部平均値8.1、最高値10、最低値5、教育地域科学部平均値8.5、最高値10、最低値4、所属無記名者の評価値10、市民受講生評価値10）であり、受講生の自己評価の平均値は7.61（工学部平均値7.3、最高値10、最低値3、教育地域科学部平均値7.8、最高値10、最低値4、所属無記名者の評価値9、市民受講生評価値10）であった。

72名中50名（工学部24名、教育地域26名）が自由筆記で意見を書いている。その中から代表的な意見を幾つか、以下に紹介したい。

- ・ 上手く書けないが、人間の可能性をとて感じた授業でした。(所属不明。匿名)
- ・ 工学部育ちの僕が今まで受けたことのないタイプの授業だった。特に少人数グループディスカッションは授業には絶対必要だと思う。それは自分の意見をしっかり発言することが大切だから。(工学部3年)
- ・ 毎回今日はどんなテーマなのか、または、どんなことを考えさせられるのだろうと少し、1限から次の講義が楽しみだった。(工学部3年)
- ・ 毎回書くレポート(感想)は講義のまとめにもなったので、よかった。自分への集中度もありよかった。(工学部3年)
- ・ 正直、最初は「共通教育の授業は、もっと内容の薄い授業で、単位を取るための授業」という意識でしたが、先生の講義を受け、なんて自分はダメだったんだろうと思いました。授業に対する意気込みが変わりました。(工学部2年)
- ・ この授業に対して、正直はじめは嫌いな時間と思っていました。そして、態度も悪かった。でも今では好きな授業です。中間ぐらいからがんばったけど、前半はダメだったので自己評価は『7』ぐらいだと思います。(工学部1年)
- ・ この講義を受けて障害者に対する考え方が変わりました。いろんな人にこの講義を受けてほしいと思う。(工学部1年)
- ・ 私には今期一番しんどい講義だったような気がします。また今はひたすらゴチャゴチャしているのですが…これからゆっくり考えてみたいと思います。(教育地域3年)
- ・ 盲学校の先生に講義に来ていただいとお話をなさってくださいったのが、今までにない経験だったので、とても新鮮でたのしかったです。(教育地域3年)
- ・ 私語のことについて時間を割いたのは良いことだと思いましたが、少し長く割きすぎて、大学生相手にここまでしなくてはいけないのか…と少しさみしく思いました。(教育地域2年)

した。(教育地域2年)

- ・ 授業に集中する時は集中し、休憩する時は思いっきり休憩する。そういったメリハリをしっかりとった授業だったので、非常にやりやすかったです。あと最初の授業は、ある一部の受講生のやかましさにうっとうしさを感じたけど、パークマン先生の注意により、やかましさはなくなったのでありがとうございました。(教育地域1年)
- ・ 今までの考え方がガラリと変わった気がします。この講義を受けてよかったと思いました。でも少し難しすぎる話もありました。あと、もう少し小グループの話し合いがしたかったなと思いました。もっと他の人の意見がききたいです。(教育地域1年)
- ・ すごく頭をつかう授業でしたが、最近頭をつかって考えることが少なかったのととてもよかったです。ディスカッションや発表も良かったけれど、毎回記述して自分の考えをまとめるという行為が一番考えることができて良かったです。新しい事実を受け入れるだけでなく、自分で考えて、またそれに疑問をもち、それを考える、という機会が随所に作られていて、とても楽しく内容のある授業を受けることができました。ただたまに自分の頭では整理しきれないテーマがあつて困りました。(教育地域1年)

5. 終わりに

共通教育科目では異なる学部の受講生が同一教室に集う。また学年も1年生から4年生に渡り市民受講生の方もいらっしゃる。受講生数も多い。この特色を生かした授業ができないものか、と考えながら講義の準備をした。そして受講生とのコミュニケーションの構築を重要な柱と考えてきた。今回は1年目の授業であり手探りであったがこれを出発点にし、より目的や対象に合った授業スタイル、内容構成を見つけて行きたいと考えている。